

日本動物園水族館協会創立 80 周年記念 公開シンポジウム

動物園水族館はこれからどうあるべきか



2019 年 12 月 21 日 (土)

主催



公益社団法人
日本動物園水族館協会
JAPANESE ASSOCIATION OF ZOOS AND AQUARIUMS

共催

公益財団法人
東京動物園協会
TOKYO ZOOLOGICAL PARK SOCIETY



創立 80 周年記念シンポジウム開催にあたり



日本動物園水族館協会は、1939 年 11 月に任意団体の日本動物園協会として発足いたしました。爾来 80 年、この間、名称が創立当初の日本動物園協会から日本動物園水族館協会へ変わるとともに、任意団体から社団法人、そして公益社団法人へと移ろい、今日の公益社団法人日本動物園水族館協会になりました。また加盟している動物園と水族館も、当初の 19 園館から 148 の園館（動物園 91、水族館 47）へと拡大した組織となりました。

日本国内には、このように数多くの動物園と水族館があり、日々幅広い年齢層の人たちが訪れますが、その目的も、思いつくだけでも動物（動物界に属する生物の意）の観賞や観察、憩いの一時をもつ、デッサンの研鑽、教育や研究の場としてなど実に多用です。そして、多様なニーズに応えることは動物園・水族館の大切な役割になっています。

いっぽう、動物園・水族館には、来訪者の期待に添うとともに、一般的にはあまり知られていない大切な業務も多々あります。本協会には、「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」という 4 つの役割があります。中でもここに最初に記した種の保存事業は、多くの動物種が絶滅の危機に瀕している今日、動物園や水族館が担っている最も重要な役目の一つであります。現在、本協会加盟の動物園・水族館は、この事柄について、施設の中における繁殖とともに生息域においての種保存に積極的に取り組んでいます。それとともに、野生からの個体の導入が困難で、飼育されている動物種を海外の動物園・水族館とも連携を取りながら個体の維持に努めている現在の状況も是非多くの方々に知っていただきたく思います。

本日は、日本動物園水族館協会が創立から 80 年を迎えるにあたり、記念のシンポジウムを開催いたします。基調講演と 4 つの園館の代表者が、それぞれの立場でお話しをいたします。本日のひとときが動物園と水族館が現在抱えている課題などについて、皆様とともに考える機会になれば幸いに存じます。

2019 年 12 月

公益社団法人日本動物園水族館協会総裁
秋篠宮文仁

日本動物園水族館協会創立 80 周年に寄せて

公益社団法人日本動物園水族館協会

会長 福田 豊



1939 年日本動物園水族館協会は創立されました。動物園や水族館は、第二次世界大戦の混乱が続く中で動物の展示や動物とのふれあいなどを通じて、人々に驚きや感動、安らぎや希望をとどける施設としての役割を果たしていました。日本動物園水族館協会は、そうした施設の集まりです。

今年、日本動物園水族館協会は、創立から 80 周年を迎えました。日本動物園水族館協会では、日本全体の視野に立って個々の動物園や水族館ではできないことを協力して行っています。そして、世界動物園水族館協会の会員として野生動物の国際的な保護活動に参画するなどしています。現在、国内の 148 もの動物園や水族館が会員となっています。また、多くの企業に維持会員として多大なご支援をいただいています。

今日、動物園や水族館は、レクリエーションの提供に加えて、野生動物や自然環境に関する教育普及、絶滅が危惧される動物種の保全、動物の飼育繁殖から得られる科学的知見の蓄積などの役割を果たしています。日本動物園水族館協会では、会員の各園館が期待される役割を果たせるよう、動物に関する情報共有や飼育技術の向上など、様々な事業を行っています。今後さらに、動物福祉の向上や動物による事故の防止などにも取り組んでいきます。

動物園や水族館が、これからも動物の展示や繁殖、動物とのふれあい、環境教育など多様な活動を通じて、一人でも多くの来場者を笑顔にすることを願っています。

基調講演

「我が国の動物園・水族館政策の新たな地平を開くとき」

神奈川大学法学部准教授

公益社団法人日本動物園水族館協会顧問

諸坂佐利



（公社）日本動物園水族館協会（JAZA）は、動物園水族館の社会的役割として、①種の保存、②教育・環境教育、③調査・研究、④レクリエーションの4つを掲げています。しかしそれら4つの役割は、何らかの法的根拠に基づくものではありません。またその実現の程度は、それぞれの園館の判断任せの状態です。

動物園や水族館の設置や運営に関連する法律には、動物愛護管理法、博物館法、都市公園法、自然公園法のほか、種の保存法、外来生物法などがありますが、そのいずれもが動物園や水族館を真正面から規律する設計にはなっていません。そもそも「動物園」や「水族館」を名乗る上で一定の法的要件・基準すらありません。現在、わが国には、自称を含めて動物園と水族館が500以上あるとされていますが、JAZAに加盟する動物園と水族館は148です。わが国の種の保存政策、外来種対策、そして動物愛護及び福祉に関する政策は、先進諸国に比べて非常に遅れていると、私は考えています。

本講演では、動物園や水族館を取り巻く法制度の現状と課題を、今一度整理し、その上で今後わが国では、どのような方向の政策展開をすべきかについてお話したいと思っています。

略歴

明治大学大学院博士後期課程単位取得満期退学後、川崎市市民オンブズマン専門調査員を経て、現在、神奈川大学法学部准教授、（公社）日本動物園水族館協会顧問。専門は行政法学、公共政策学。

イリオモテヤマネコ保全を目指した竹富町ねこ飼養条例改正に参画したことを契機に、自然生態系保全、外来種問題、動物愛護・福祉政策、そして動物園水族館政策について精力的に調査・研究を進めている。

主著として、「動物園法学事始め①②」（環境と正義No.193,195）、「一法学者の視点から、日本の動物園を考える」（神奈川大学法学研究所研究年報33）、「我が国の『水族館』を取り巻く法環境に関する法解釈学的及び法政策学的考察—いわゆる『イルカ問題』にも触れながら」（博物館 研究53（棚橋賞受賞論文））など。

協会シンポジウムについて 4 園館長からのお話



東京都恩賜上野動物園園長 福田 豊
日本動物園水族館協会会長

創立 80 周年を迎えた協会の役割は、今後益々重要となる。動物福祉向上、動物による事故防止、国際的ネットワークを通じた飼育繁殖、野生復帰を視野に入れた種の保存、動物園水族館技術者の資質向上、研究機関との連携など、様々な課題に取り組んでいかなければならない。そのためには事業見直しとともに、クラウドファンディング等による財政確保など団体経営の視点も必要である。「JAZA10 年ビジョン 2013」の改訂を控えた JAZA の考察である。

加速化的に変化する社会、多様化する情報、不安定な雇用体制の中で、動物たちを守り、命をつないでいく動物園は、どのように進んでいくべきなのかを日々模索している。

その環境の中で、埼玉県こども動物自然公園らしさや、ならでは、の個性を大切につなぎ育て、特性を持ったブレない動物園をめざしたい。



埼玉県こども動物自然公園園長 田中 理恵子

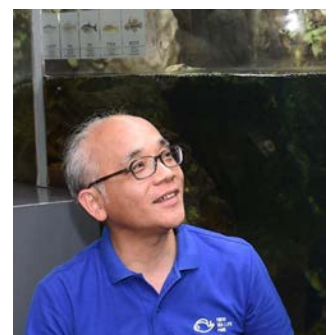


鴨川シーワールド館長 勝俣 浩
JAZA 総務委員会水族館部長

自然環境や生き物とのつながりが希薄になる一方の現代社会にあって、自然への入り口として動物園や水族館が果たす役割が見直されている。中でもイルカ類を飼育する水族館は、ショーやふれあいプログラムを通じて来園者に生物の魅力を体感してもらう機会が多い。今、この役割を果たし続けるため、動物福祉に基づいた飼育管理の質の向上、傷病動物の保護や希少野生生物の域内 / 外保全への協力、調査研究活動への取り組みの強化が求められている。

「動物園水族館自身はどうなのかが問われる」

80 年前の JAZA 創立当時の世界人口は 24 億人だったが、現在は 74 億人と急増し 80 年後には 112 億人と予測されている。動物園水族館の野生生物保全の取組みは広がり進んだ。しかし、人の影響が極めて大きくなった「人新世」の地球では「ティッピングポイント」が間近に迫る。生きものの賑わいに満ちた地球の健全性こそが基盤である動物園水族館は、これからどうしていくのか。「2030 年までにまだできること」を考えたい。



東京都葛西臨海水族園園長 錦織 一臣

公益社団法人日本動物園水族館協会創立 80 周年記念シンポジウム スケジュール

開催日時：2019 年 12 月 21 日（土）13：00～16：30

開催場所：東京都多摩動物公園 動物ホール 東京都日野市程久保 7-1-1

スケジュール：12：30 開場 総合司会：原 久美子（横浜市立金沢動物園園長・JAZA 教育普及委員長）

13：00～13：15 開会の挨拶・趣旨説明等：福田 豊（JAZA 会長）

13：15～14：15 基調講演：諸坂 佐利（神奈川大学法学部准教授・JAZA 顧問）

14：15～14：30 休憩

14：30～15：30 4 人の園館長からのお話

東京都恩賜上野動物園園長 福田 豊

埼玉県こども動物自然公園園長 田中 理恵子

鴨川シーワールド館長 勝俣 浩

東京都葛西臨海水族園園長 錦織 一臣

15：30～16：30 総合討論・質疑応答

パネリスト：諸坂 佐利・福田 豊・田中 理恵子・勝俣 浩・錦織 一臣

モデレーター：出口 智久（JAZA 副会長・宮崎市フェニックス自然動物園園長）

16：30 挨拶：渡部 浩文（東京都多摩動物公園園長・JAZA 総務委員会倫理福祉部長）

閉会挨拶：伊勢 伸哉（小樽水族館館長・JAZA 副会長）

【主催】



公益社団法人
日本動物園水族館協会
JAPANESE ASSOCIATION OF ZOOS AND AQUARIUMS

【共催】

公益財団法人

東京動物園協会
TOKYO ZOOLOGICAL PARK SOCIETY



この資料の著作権は公益社団法人日本動物園水族館協会に帰属します。
記事・画像の無断使用、二次的使用を行わないようにお願いいたします。



公益社団法人日本動物園水族館協会の歴史

1939 年（昭和 14 年）11 月	日本動物園協会の名称で任意団体として発足・会員は動物園 16 園、水族館 3 館
1940 年（昭和 15 年）6 月	日本動物園水族館協会に名称を変更
1949 年（昭和 24 年）5 月	日本動物園協会に名称変更
1956 年（昭和 31 年）1 月	日本動物園水族館協会に名称を戻す
1965 年（昭和 40 年）11 月	社団法人日本動物園水族館協会設立（文部省所管）
1988 年（昭和 63 年）5 月	礼宮文人親王殿下（現在の秋篠宮皇嗣殿下）を総裁に推戴
2012 年（平成 24 年）4 月	公益社団法人日本動物園水族館協会へ移行（内閣府所管）
2019 年（令和元年）11 月	創立 80 周年・会員は動物園 91 園、水族館 57 館

公益社団法人日本動物園水族館協会 東京都台東区台東 4-23-10 ヴェラハイツ御徒町 402
TEL : 03-3837-0211 FAX : 03-3837-1231